

二十八衆句 新助

像せうきさちえまハ厨らぬ音子

誇し小間乃花も

秋七悲む大井の月

夕を破ら鐵棒は音

當強し稻葉乃風

つ鮭の手料理

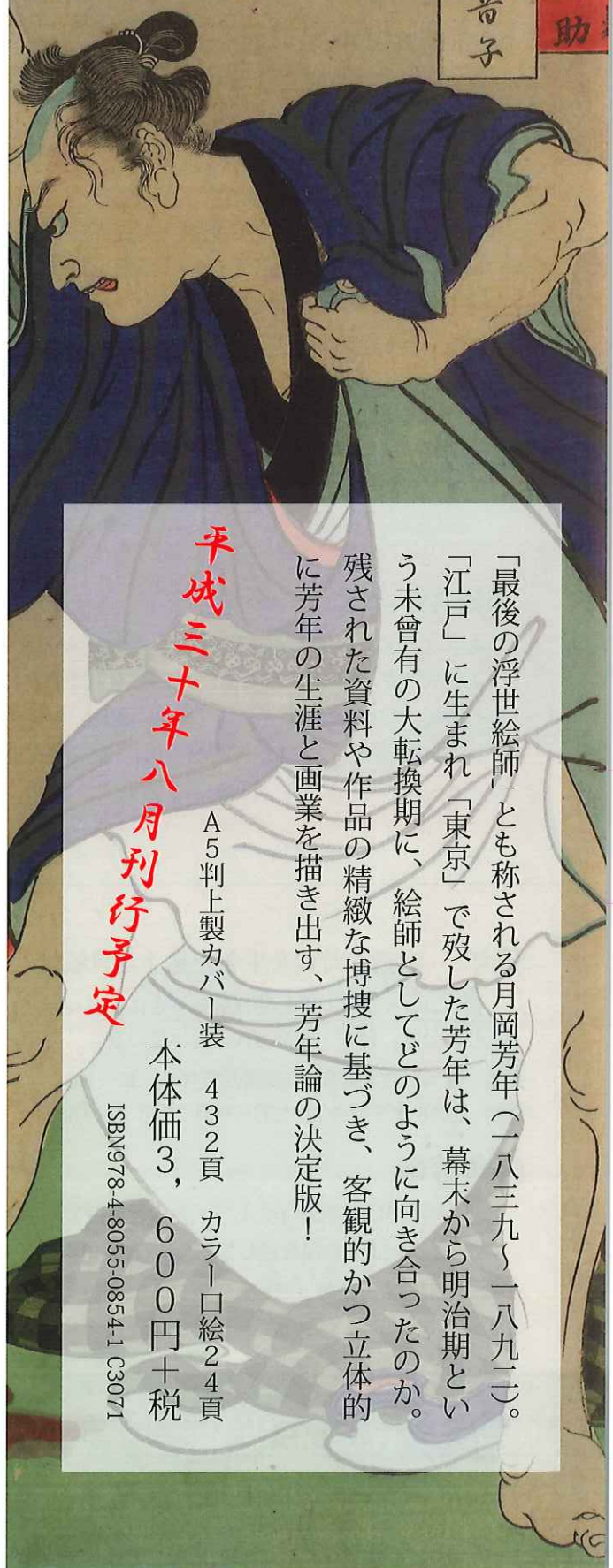
騾切りの西爪の割方

つきおかよしとしでん

月岡芳年伝

幕末明治のはざまに

菅原真弓 (大阪市立大学教授) 著



「最後の浮世絵師」とも称される月岡芳年(一八三九〜一八九二)。「江戸」に生まれ「東京」で歿した芳年は、幕末から明治期という未曾有の大転換期に、絵師としてどのように向き合ったのか。残された資料や作品の精緻な博搜に基づき、客観的かつ立体的に芳年の生涯と画業を描き出す、芳年論の決定版!

平成三十年八月刊行予定

A5判上製カバー装 432頁 カラー口絵24頁

本体価3,600円十税

ISBN978-4-8055-0854-1 C3071

中央公論美術出版



可史山人

一のう記

月岡芳年「英名 千八衆句 稲田久蔵新助」慶応二年(一八六六) 個人蔵

錦盛堂

魁上齋

名だたる文豪に愛された浮世絵師の全貌に迫る、画期的論考。

ぢやこの芳年をござらんなきい……あの江戸とも東京ともつかない、夜と昼とを一つにし
たやうな時代が、ありありと眼の前に浮かんでくるやうぢやありませんか
芥川龍之介

グロッタの集中的表現があり、おのれの生理と、時代の末梢神経の昂奮との幸福な一致
にをののく魂が見られる。
三島由紀夫

あり得ないけれども真実なる姿態である。写実ではない。写実でないからこそレア
ルである。ほんとうの「恐怖」が、そして「美」がある。
江戸川乱歩

目次

序 月岡芳年の肖像

第一部 月岡芳年の人物像

第一章 語られてきた月岡芳年

第二章 月岡芳年の人生—伝記資料を基に—

第二部 月岡芳年と「幕末」

第三章 幕末の芳年—習作期の様相—

第四章 「血みどろ絵」の時代

第三部 月岡芳年と「明治」

第五章 芳年と明治の「媒体」

第六章 「西南戦争錦絵」という媒体

第七章 芳年の「歴史画」—「歴史画」以前の歴史画として—

第四部 月岡芳年と「江戸」

第八章 「月百姿」とその時代—「江戸への回帰」とその文化的背景—

第九章 戻れない「江戸」への回帰—大判二枚続作品と掛物絵判を中心に—

第十章 芳年描く女性像

終章 月岡芳年の位置

資料 月岡芳年総文献目録(稿)/月岡芳年死亡記事(翻刻)/人気番付/吉岡(月岡)家墓所
配置および記述/月岡芳年関係家系図/月岡芳年翁碑(翻刻)/落款/年譜/月岡芳年
年譜(稿)

著者略歴

菅原真弓(すがわら・まゆみ)

大阪市立大学大学院文学研究科教授。学習院大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士後期課程単位修得退学。博士(哲学)。主な著書に『浮世絵版画の十九世紀—風景の時間、歴史の空間』(ブリュッケ、2009年)、『月岡芳年「和漢百物語」(謎解き浮世絵叢書)』(二玄社、2011年)。共著に『激動期の美術—幕末・明治の画家たち続』(ペリカン社、2008年)など。

〔展覧会情報〕

芳年—激動の時代を生きた鬼才浮世絵師

個人コレクションとしては質量ともに世界屈指といえる西井正氣氏の芳年コレクションから、選りすぐりの263点を15年ぶりに公開。幕末・明治時代の浮世絵の泰斗、芳年の全貌に迫る。

会場 練馬区立美術館(練馬区貫井1-36-16)

会期 2018年8月5日(日)~9月24日(月・休)

落合芳幾

同じ国芳門下の兄弟子にして、血みどろ絵で芳年と双璧をなした落合芳幾。その知られざる画業の全貌について、代表作を含む80点以上の作品を通して紹介する、本邦初の回顧展。

会場 太田記念美術館(渋谷区神宮前1-10-10)

会期 2018年8月3日(金)~8月26日(日)

中央公論美術出版

TEL 03-5577-4797 / FAX 03-5577-4798

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1 I V Yビル6F

お取り扱いは